

2023 年度

「ソーニャ&加藤周一・若手研究者（本学大学院生を含む）育成プログラム」

募 集 要 項

1. 「ソーニャ&加藤周一・若手研究者（本学大学院生を含む）育成プログラム」について

加藤周一氏はフランス、カナダ、ドイツ、イギリス、アメリカ、スイス、イタリア、中国、メキシコなどの国々の大学で教鞭をとり、のべ 50 冊の著書が海外で翻訳されており、海外の日本研究者やメディアから高い評価を得た、戦後日本を代表する国際的知識人である。

本学との関係では、国際関係学部の客員教授を長く務め（1988－2000）、国際平和ミュージアムの初代館長に就かれた（1992-1995）。2016 年には、平井嘉一郎記念図書館に「加藤周一文庫」が開設された。

本プログラムは、加藤周一氏の御息女であるソーニャ・カトー氏の御厚志により、加藤周一氏の思想研究、あるいはウィーンおよびオーストリアに関わる主題を追究する若手研究者を育成し支援することを目的とし「立命館大学第 3 期研究高度化中期計画（2016～2020 年度）」において認められ、特定連携プログラム（2017～2021 年度）の一つとして実施されてきたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により 2020 年度以降は中止されていた。この度、本プログラムの実施について、ソーニャ・カトー氏にご快諾いただいたことから派遣者の募集を実施する。

本プログラムの採択者は、国際的知識人であった加藤周一氏と同様に、国際都市ウィーンに滞在し、現地の大学図書館や博物館を利用し、ソーニャ・カトー氏ならびにその御家族との知的交流を通じて、加藤周一氏の思想と行動、ウィーンの文化やヨーロッパの歴史を学び、国際的理解を深め、立命館大学を代表する国際的知識人となることを期待する。

2. 募集内容

対 象 者	国際的知識人であった加藤周一氏と同様に、国際都市ウィーンに滞在し、現地の大学図書館や博物館を利用し、ソーニャ・カトー氏ならびに御家族との知的交流を通じて、加藤周一氏の思想と行動およびウィーンの文化やヨーロッパの歴史を学び、国際的理解を深め、立命館大学を代表する国際的知識人となることが期待される。そのため、下記の条件を有することが求められる。 ・加藤周一氏およびその思想に対する関心をもっていること、あるいは、ウィーンおよびオーストリアに関わる問題に関心を抱いていること ※所属の専攻や研究分野については問いません
申請資格	次のすべての資格を満たすこと ① 立命館大学の修士課程、博士課程前期課程、博士課程後期課程、一貫制博士課程に在籍する者、もしくは、立命館大学の教授・准教授・特別契約教員（教授・准教授）・特別招聘教員（教授・准教授）＜本務教員のみ＞、特別招聘研究教員（教授・准教授）、任期制教員（教授・准教授・助教）、特任助教、初任助教、助手＜教員系列のみ＞、専門研究員、研究員、初任研究員、プロジェクト研究員＜日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）のみ＞

	① 2023 年 7 月 1 日～9 月 30 日までの間に、ウィーンに滞在(4～6 週間)し研究活動を希望する者 ② 2023 年 4 月 1 日時点で 35 歳以下の者
採択人数	1 名
助成内容	1. 立命館大学からの助成 ①日本ーウィーンの往復エコノミー運賃 (変更不可、返金不可のエコノミー航空運賃を提供し、それ以外の航空券を利用する場合には、差額および手数料は搭乗者負担とする) ②大学が指定するが海外旅行保険の料金 2. ソーニャ・カトー氏からの助成 ①滞在所の提供 (ウィーン旧市街にあるアパートメントハウス一室) ②毎週 100 ユーロの現金 (現地にて支給)
対象期間	2023 年 7 月 1 日～2023 年 9 月 30 日のうち 4～6 週間
受給条件	①本助成の成果を外部発表する場合には、「ソーニャ&加藤周一・若手研究者(本学大学院生を含む)育成プログラム」の支援によるものであることを明記すること。 ②研究担当副学長(研究高度化推進委員会委員長)に成果報告書を提出すること。

3. 選考

- ・書類選考および面接選考を実施する。
- ・研究を担当する副学長を委員長とする研究高度化推進委員会委員の若干名にて構成される審査委員会において、採択者を決定する。審査委員会には有識者として加藤周一現代思想研究センター運営委員の若干名を加えることができる。

4. 選考基準

- ・審査委員会において、次の各号の基準により、書類審査および面接審査の内容を総合的に判断して選考を行う。
- (1) 加藤周一氏およびその思想に対する関心、あるいは、ウィーンおよびオーストリアに対する関心があること
- (2) オーストリア滞在時に実施する研究内容と計画が妥当であること
- (3) ソーニャ氏をはじめとした、現地の人びととの交流が可能であること

5. 申請方法

- ・下記の書類の提出
- (1) 「ソーニャ&加藤周一・若手研究者(本学大学院生を含む)育成プログラム」申請調書
- (2) レポート(書式自由、A4・1枚程度)
 加藤周一氏に対する関心、あるいはウィーンあるいはオーストリアに対する関心について、また、オーストリア滞在時に実施する研究内容と計画および期待できる研究成果について、A4・1枚程度でレポートを作成すること。

- ・申請書類提出方法：下記の提出先にメールもしくは郵送で送付すること。
- ・申請書提出先：〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
立命館大学衣笠キャンパス 修学館 2 階
衣笠リサーチオフィス／野村・乾
外線：075-465-8225／内線：511-2637
E-mail：rcsk@st.ritsumeai.ac.jp

6. スケジュール

- (1) 申請期間：2023 年 3 月 13 日（月）～2023 年 4 月 21 日（金）17:00
(郵送の場合は、2023 年 4 月 21 日（金）までの消印有効)
- (2) 面接日程：2023 年 5 月中旬
※書類審査のうえ面接対象者には、実施日時および会場を別途連絡する。
- (3) 選考結果：2023 年 5 月下旬に応募者に文書で通知する。

7. 申請書類および個人情報の取扱い

- (1) 申請調書等の提出物は審査のみに利用する。なお、提出物の返却はしない。
- (2) 申請調書等より取得した個人情報は、審査以外の目的には利用しない。

8. その他特記事項

滞在予定に変更を生じた場合は、速やかに立命館大学担当課に報告すること。

以上

※加藤周一氏及びソーニャ・カトー氏の業績とプロフィール

加藤周一氏（1919—2008）は、戦後日本を代表する国際的知識人であり、洋の東西にわたる視野のもとに日本文学史や日本美術史を研究する。海外で翻訳された著書は 50 冊近くにのぼるが、代表作である『日本文学史序説』は八カ国語に翻訳され、海外の日本研究者にとっての必読文献である。本学国際関係学部で客員教授、立命館平和ミュージアムの初代館長を務めた。遺された蔵書・手稿ノート類は本学図書館に寄贈され、「加藤周一文庫」が 2016 年 5 月に公開された。

ソーニャ・カトー氏（1972 年生まれ）は加藤周一の息女である。ウィーン大学を卒業し、ウィーン大学修士（歴史学）を取得する。フリーランスとしてオーストリア放送協会に勤務し、その後オーストリア社会民主党の広報部に所属し、2001 年から 2010 年までウィーン市会議員を務める。2016 年 5 月に行なわれた加藤周一文庫開設記念講演会で講演した。